室蘭まちづくりトークイベント　レポート

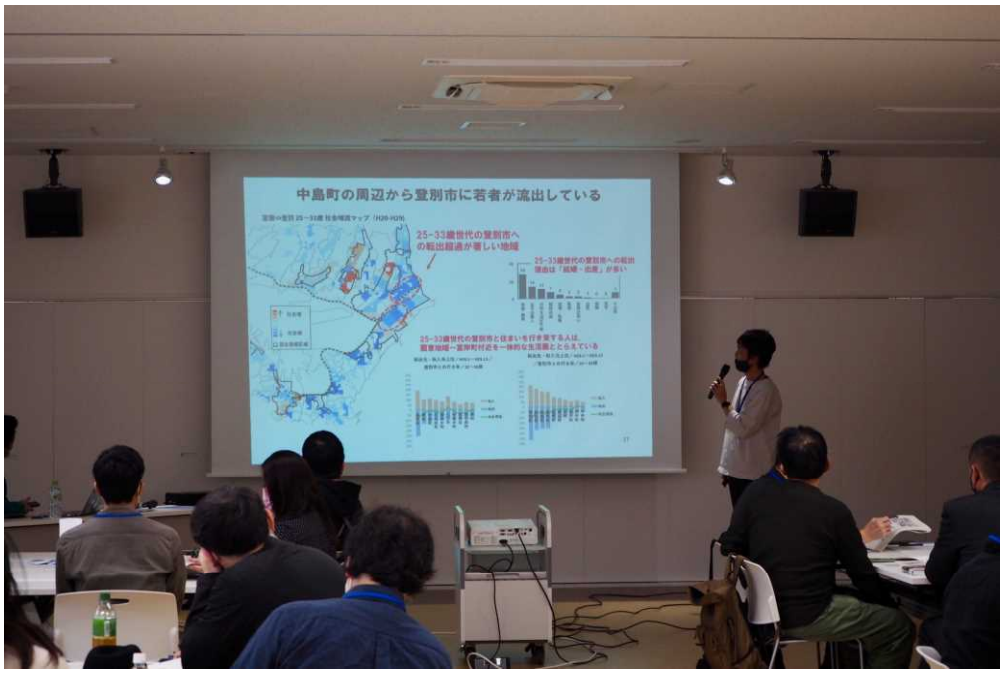
2021.11.28 にまちづくりを担うプレイヤーのつながりの場「まちづくりトークイベント」を開催しました。

今回は、日本大学理工学部助教／ソトノバ共同代表　泉山塁威氏をゲストスピーカーとしてお招きし、まちづくりのさらなる推進と意識向上に向けその担い手となる市民向けの講演会及びワークショップを行いました。

市からの情報提供や、市民スピーカー６名（中央町: ３名、中島町: ３名）から活動の経緯・現在行っているイベントの趣旨や内容をお伝えし、中島町や中央町でのまちづくり活動内容を紹介後、スペシャルゲストの泉山塁威氏に講演をしていただきました。
後半は、「自分ができるまちづくりを考えよう」をテーマにワークショップを行いました。「私ができるまちづくりはこれだ！」と参加者から多種多様のアイデアがたくさん飛びだし、大いに盛り上がりをみせました。
もちろん、イベント後に有志で懇親会も行い、参加者同士の懇親を深め、まちづくりについて語り合いました。

【情報提供】

はじめに、事務局からの情報提供。そもそも「まちづくりトークイベントとは何か」から始まり、トークイベントは、まちプロ室蘭の取り組みの一環として開催していることをご説明。さらに、中央町と中島町の路線価と人口の推移の関係を示し、室蘭市の現状を把握していただいた。続いて、市が作成した立地適正化計画・まちづくり将来ビジョンを挙げ、現在取り組み中である「中央町オープンスペースまちなか活性化実証事業」や「室蘭路上利用大作戦」についてご紹介。中島の路上営業に関しては、「ほこみち制度」に移行を考えていることもお伝えした。



【市民スピーカーによるトーク】

市からの情報提供の後は、ゲストスピーカーによるトーク。

１組目は、たのしまさる会議メンバーでもある**猪股さん、川去さん、柴田さん**の３人にトークして頂いた。

猪股さん、川去さん、柴田さんは、室蘭工業大学 山田准教授の研究室に所属し、建築設計をはじめ、建物周辺の環境、まちの空間デザインまで幅広く研究されている工大生ら。たのしまさる会議の結成当初からメンバーに参加し、イチから「中央町たのしま横丁」を作ってきたメンバーである。その３人が、今回は「中央町たのしま横丁」の誕生から現在までの経緯、今後の展開や課題について語ってくれた。

中央町たのしま横丁は、令和２年の３月下旬に市役所から実証事業の説明を受け、一緒にやってきた。いざ、始めていこうとした矢先に新型コロナウイルス感染症が流行り、令和３年度に延期を決定。コロナ禍の中でも Zoom 会議を通し、空き地であるこのスペースをどうやったらまちに活かすことができるのかについて話し合いを進めてきた。様々な空間デザインのアイデアが募り、構想がスタートしていった。と柴田さん。

広場の空間デザインが決まり、単管で作られたマスをどんな空間にしていくかを A～E の各グループでアイデアを出しを行った。その結果、小学校の廃材を活用した、様々な用途で使える空間が誕生した。2021 年 7 月 3 日(土)にオープンイベントを行い、その後は様々な

イベントが 40 回以上開催されている。いろいろな用途に使えるようにはしていたが、想像以上に使っていただいている。と川去さん。

全体を通して、「組織的な雰囲気ではなかった」「自然と取り組みが起こる」「メンバーが固定化している」「イベント自体は成功しているが、今後のまちづくりに繋いでいけていない。」と猪股さんが感想と課題をまとめてくれた。

今後として、東京のホッピー通りのような活気のある商店街みたいにしていきたい。と意気込みで締めくくりいただいた。

2 組目は、ウォーカブルインナカジマとして中島町でご活躍されている**庭山貴行さん、今野洋平さん、ホシサトミさん**にトークしていただいた。

庭山貴行さんは、ナニナニ製菓を営みながらウォーカブルインナカジマの代表を務めている方。商店街や商店会の企画するイベントだけじゃなく、「あれやりたい」「これやりたい」と思っている人が中島には多かった。やりたいことがある人を集めて、みんなで協力すれば人手やお金の問題もなく、各自のやりたいことが実現されるのではないかと考え、ウォーカブルインナカジマという団体を作った。いざ、実践していこう！となった矢先にコロナ。コロナ禍の中でもできることはないかと、国や市の制度を探したり、補助金の申請に動いてきた。今後も中島の飲食店が盛り上がっていくために、様々な企画をサポートし、飲食店全体をまとめていきたいと力強く語ってくれた。

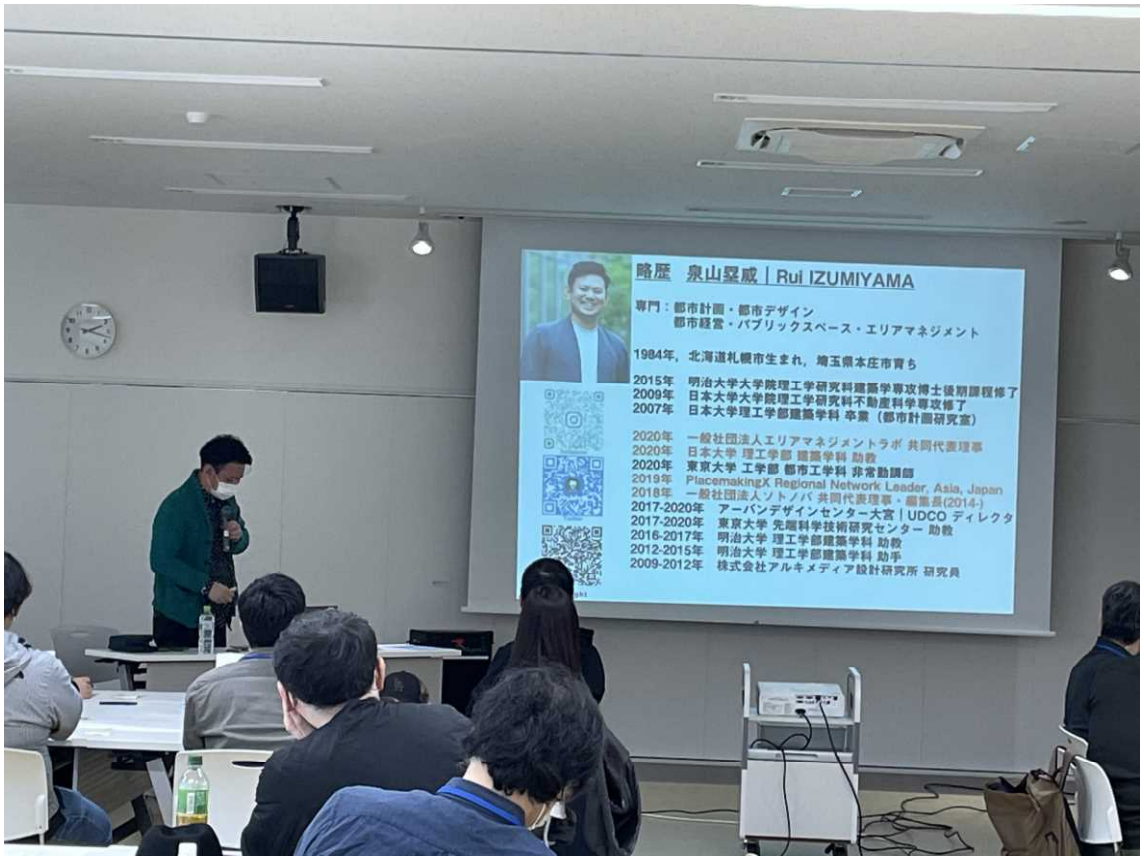
今野洋平さんは、登別と白老で民泊を経営・開業支援し、白鳥ヒュッテ友の会の一員として、「焚き火」をきっかけにソトアソビの楽しさを知ってもらいたいと、「URBANTAKIBI」を企画。まちなかで火をおこすイベントなどそうそうない、買い物帰りや仕事帰りにふらっと寄れる場を提供したいと思った。これまで 16 回（全 24 回）やってきたが、お元気広場を活用して何かイベントを催すと必ず人がやってくる。「何かやっているぞ」「どんなことやっているのかな」とどんどん人が集まる。これらがまちの活性化につながっていくのではないかと熱く語ってくれた。

ホシサトミさんは、女性の企業進出のお手伝いをしたりママさん方の拠り所となるイベントを企画運営している方。物販・飲食・体験を兼ね合わせたイベントを企画するとたくさんの方が集まる。複数のイベントが同時開催していると、片方のイベントに参加した人が次のイベントに流れるため、人が常に居る状態になる。「おさがり交換会」は参加人数 100 人くらいの規模で大変盛り上がった。おさがり交換会が目的ではない方も多く、「何かやっているから行ってみよう」「盛り上がっているから見てみよう」と訪れた人も多かった。と嬉しそうに語ってくれた。

庭山さんは、「ウォーカブルインナカジマは、今野さんやホシさんらを中心に楽しいイベントを代わる代わる行い、今後も盛り上げていく」とまとめ、ウォーカブルインナカジマの紹介を終えた。

【スペシャルゲストによる講演】｜泉山 塁威氏

いよいよ、スペシャルゲストである**泉山塁威氏**による講演がスタート。
泉山塁威さんは、日本大学理工学部建築学科 助教/一般社団法人ソトノバ 共同代表理事としてご活躍なさっている方。主な著書は、「タクティカル・アーバニズム：小さなアクションから都市を大きく変える」（編著、学芸出版社、2021 年）などが挙げられる。



講演は、自分を知らない人も居るだろうからと自己紹介からスタート。都市計画や都市デザインを専攻し、兵庫県姫路駅前のプロジェクトには学生の頃から参加していた。その後、日本大学の助教を務め、2015 年よりソトノバにて活動もしている。

「ソトノバ」は屋外である場所を心地が居い場所に変えていこうというもの。車社会である現代、車道を歩行者天国のようにするには、道路空間をどうしたらいいかなどのプロジェクトを行っている。屋外を居心地の良いものにするにはパブリックライフが大切。まちでく

つろいだり、居心地が良い時間を過ごすにはパブリックスペースを上手く活用することが必要。公共空間の利用を前提にした都市計画があって、市民が道路・駐車場・空き地・民地を上手く活用できればまちは豊かになっていく。「パーキングデイ」の事例をもとに、カリフォルニアの大学生が起こした小さなアクションが、世界中を巻き込む大きなイベントにつながり世界を変えたなどをお話しいただいた。

さらに、行政はイベントを一時的なものにせず、日常的な賑わいにするにはどうしたらいいかサポートする事が大切。80%の計画は実行されないから思い立ったらすぐに行動を起こしてみるべき。などとご教授いただいた。

やりたいことをいきなり 0 から 100 にするのは難しい。少しずつやれる範囲を増やしていくことで、目指す場所の完成に近づく。大事なのは、多様な目的とアクティビティが日常になっていくこと。「場所+人」。場所があってそこに人が存在し、初めて居心地の良い空間になる。ぜひ皆さんも小さなアクションを起こして街中を変えていき、それを日常にしていって欲しい。と室蘭のこれからに期待を込めて語ってくれた。

【グループワーク】｜アイデア出しワークショップ

ゲストスピーカーのトークのあとは、休憩を挟み１～４班ごとに分かれてワークショップを行った。

各班「自分ができるまちづくり」について、自由な意見や発想が飛び交い、有意義な時間となっていた。最後は話し合った内容を１班から順番に発表。

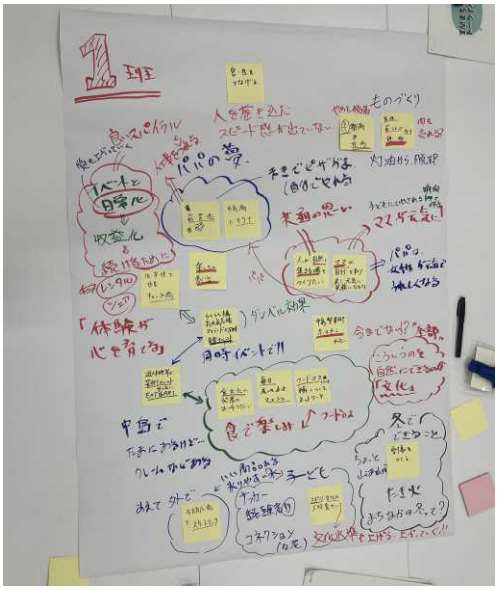
【１班】

・楽しくないと意味がない

・イベントを日常化につなげる

・楽しいことがあるから、人が街へ繰り出す仕組み

・継続的にイベントがあるように色んな事を同時開催する



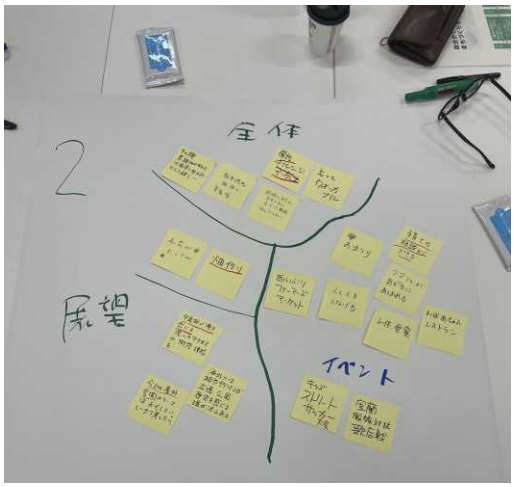
【２班】

・中島でも港を感じたい

・日常的に歴史が感じられるような仕組み

・サッカー大会の開催

・今あるイベントを日常的な賑わいにしていく



【３班】

・お寺で疑似まご体験

・カナヅチを持つイベント（木工教室のような…）

・大学があるまちの特性を活かしたい

・人と人がもっと気軽に繋がれるイベント（合コン?!）

・高齢者運動会を開催したい

・バス停で待っているときも楽しく待てるような仕組み

【４班】

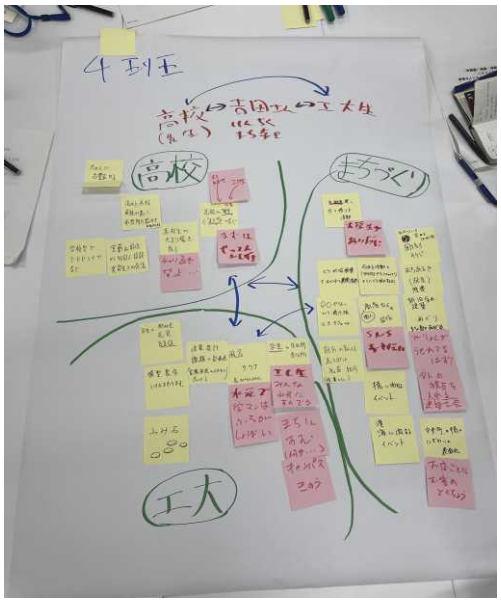
・探求という授業で市民と繋がる

・高齢者の力をもっと活用できないか

・中央町のお店がまちに浸透されていない

・学生が遊ぶ場所・飲み屋が少ない

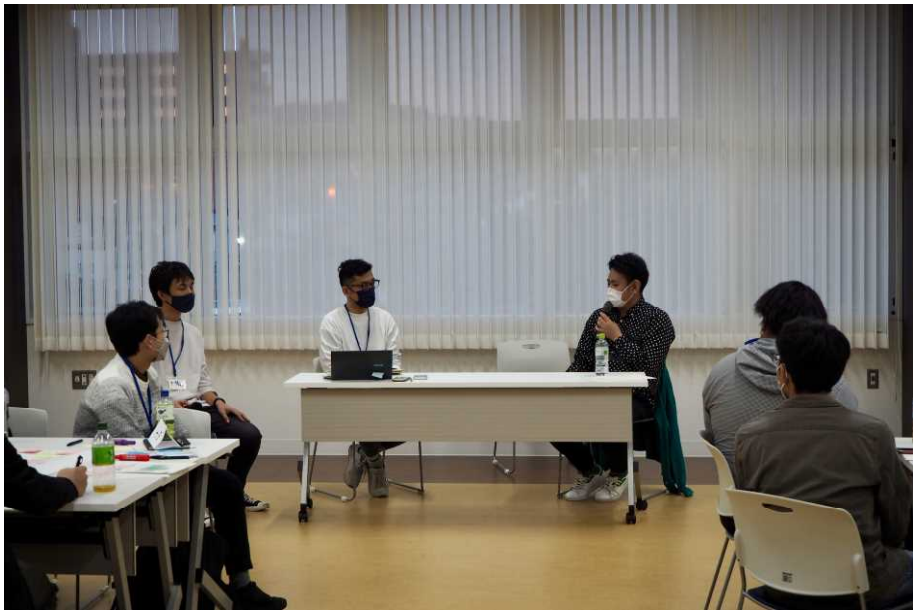
・新しいアクティビティもあるが、上手く活かせていない



【泉山さん総評】

・学校関連の話が多く出ていた

・同時多発的にイベントが起きていることは大切



【トークセッション】

（泉山さん）

東京や大阪でもまちの違いがある。東京はまちのために頑張る市民がいない。企業がまちのために頑張っているイメージ。大阪や兵庫は、市民・企業・行政がそれぞれの役割を果たしているのでバランスがいい。

行政は公的な不動産屋。市民が公共空間を使うときに、まちのために使っていただくにはどうしたら良いかを考えるべき。まちづくりに関わろうとする人の動機はひとりひとり違うはず。市民と行政でまちづくりのビジョンをしっかり共有すべき。

「路上営業をやってみての感想」

（及川勝秋さん）

一部から批判的な意見もあがったが、お祭り好きの室蘭市民は、全体的にとても喜んでいたと思う。商売する側から言わせてもらうと、利益は大事。継続的にやっていくにも収益を考えながらやっていかなければならない。

（庭山貴行さん）

気がついたら、お客さんではなくこどもが集まる場所になっていた。毎日、違う遊びを考え次々遊んでいく姿を見て、室蘭市にはこどもが自由に遊べる空間がもしかしたらないのではないかとも思えた。周りからは「久々に子どもの元気な声を聞いた」「昔はこんな感じだった」と懐かしんでいる様子を見てほっこりした。

（細川正人さん）

緊急事態宣言が終わってからはまちに人が出ていると思う。焚き火にも人が集まってる。

「中央町での活動について」

（小澤悠さん）

イベントの周知が SNS 含め、あまりできていなかった。そもそも中央町の人が参加していないのでそこが問題。もっと巻き込んでいければいいが…。

（吉田幸恵さん）

現在、これから行うキャンドルナイトイベントに向けて、キャンドル作りを市民の方含め行っている。子どもたちが何個もキャンドルを楽しそうに作っている。冬休みの工作にしたいという方もいらっしゃって、冬休みに向けたイベントを企画していくつもり。

「市の今後について」

（竹内政光さん）

市は来年で、開港 150 年・市制施行 100 年を向かえる。コロナ禍の今、何をやっていくか決めかねている部分もあると思われる。市民側がもっとアピールしていけば、行政も手厚くサポートしてくれるはず。今後市はどのようにまちづくりしていくのか聞かせて欲しい。

（市役所）

開港 150 年・市制施行 100 年の冠をつけたイベントを開催するなど、どんどん色んな事をやって欲しい。記念事業の事業提案も募集しているので、ぜひ応募してほしい。

【まとめ】

室蘭に初めて訪れたが、色々な方が様々な場所で活動されていることがわかった。外から見てもわからないので、今日来て良かった。コロナ禍で持続が難しい中、2 拠点（中央町と中島町）を中心に次の目標に向かって頑張っていって欲しい。と泉山さんから激励を頂きトークイベントを終了した。

【懇親会】

トークイベント終了後は、ゲストスピーカーと参加者の有志で懇親会へ。

各々まちづくりへの熱い思いを語り合い、意気投合することで新たな活動が生み出され、貴重な時間となりました。

最後になりましたが、ゲストスピーカーのみなさん、ご参加いただいたみなさん、ありがとうございました。もう一度トークイベントを開催したい、うちの地区でも開催したいという方は、ぜひ市までご相談下さい。